

2 時点（第 2 期・第 3 期）の定点調査で植被率が低下した事例

自然環境保全センター

(1) 間伐等の整備による一時的な影響によるもの

場所：山北町山北（スギ）

調査年度：2018 年度（H30）

- ・間伐木や枝葉を伏せた場所と定点コードラートの半数程度が重複（写真 1）。
- ・間伐により光環境も改善しているため、今後は大幅な下層植生増加が期待できる。

※植被率は低いが裸地ではなく地表が覆われているため土壌は保全されている。



写真 1 第 3 期の定点調査時の状況

(2) 森林の階層構造が発達しつつあると考えられるもの

場所：相模原市緑区沢井（スギ、ヒノキ）

調査年度：2017 年度（H29）

- ・高さ 1.5m 以下の植被は減少したが、高さ 1.5m を超える低木層等の植被が増加し、階層構造が発達しつつある林分（写真 2）。

※大洞沢試験流域における土砂生産量測定において草本類の斜面よりも低木類の発達した斜面のほうで土砂生産量が少なかったことを踏まえると土壌は保全されている状態と考えられる。



写真 2 第 3 期の定点調査時の状況

(3) シカによる採食が比較的大きく影響していると考えられるもの

場所：南足柄市矢倉沢

（スギ、広葉樹）

調査年度：2018 年度（H30）

- ・スギ林と広葉樹林ともに外から見ると藪状だが、高さ 1.5m 以下の植被率が低い箇所があり、アオキの衰退している状況もみられる（写真 3）。



写真 3 第 3 期の定点調査時の状況